※令和３年度以前入学生用

学校番号	T3011

令和５年度　芸術科

教科	芸術	科目	美術Ⅱ	単位数	２単位	年次	3～4 年次
使用教科書	「美術２」（光村図書出版）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

美術内容に応じた課題を形成し、テーマから感性を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、感動や湧出したイメージ、自己の考えや夢などを基に、表したいことを自らの内面に働きかけ、問い直しながら制作し、美術を愛好する心情を育てることを目指します。

2　学習の到達目標

美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:美術への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心をもち、主体的に個性豊かな表現の鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、自然、自己、社会などを深く見つめ主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、主題に合った表現方法を工夫し、創造的に表している。	美術作品などの表現の工夫や心豊かな生き方の創造に関わる美術の働き、美術文化などの理解を深め、そのよさや美しさを多様な視点から創造的に味わっている。
評価方法	・授業に取り組む姿勢 ・ワークシート	・ワークシート ・作品提出	・ワークシート ・作品提出	・ワークシート ・鑑賞シート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期(4～7月)	平面構成	「鉛筆と色彩で表現する」		○	○	◎	b:色彩の配色や配置を考えることで構成力を養える。 c:線と線の間隔を拡狭したり、配色方法を考えることで、平面を曲げる方法を身につけることができる。 d:鉛筆の画材としての使い方を再認識し、調子を描きわけ、モノクロの世界を味わう。	・ワークシート ・作品提出 ・鑑賞シート
前期(8月～10月)・後期(10月～12月)	身近なものへのこだわり	「リアルの追求」	○	◎		◎	a:特殊な画材を使用し本物そっくりの物体をつくっていく。一連の制作を行い、リアルなモノへの追体験を行う。 b:身の回りにある物を見つめ直し、それらを材料に、形や色、素材の特徴を生かしてユニークな作品を創造する力を育てる。 d:作品に色彩を加えることでリアルさを深く体験していく。	・授業に取り組む姿勢 ・ワークシート ・作品提出 ・鑑賞シート
後期(1月～2月)	商品広告オリジナル	「企画、開発、制作してみよう」	◎	○	○		a:社会にあふれ出ている様々な商品やモノを知り、自ら思案した題材を作ることでものづくりの良さを味わう。 b:相互学習によるプレゼンテーションができる。 c:自分が好きな物を選び、そのよさが効果的に伝わるような広告をつくる。	・授業に取り組む姿勢 ・ワークシート ・作品提出

※　表中の観点について　a:美術への関心・意欲・態度　b:発想や構想の能力
c:創造的な技能　d:鑑賞の能力

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。